

# 私の風土記

今村 雄二郎 (株式会社アイヴィス 名誉顧問)

## 第五章

### 私の上司達

入社の際に私を航空機販売に引き込んだ部長は、絵野沢静一という人である。彼の前歴は、旧陸軍の航空本部、技術部長で陸軍中将であったから、当時はまだ航空自衛隊の幹部が部下として残っていた。又課長の前田晋は昭和20年の東大第二工学部出身で、航空技術研究所などには同窓も多かった。そんな環境で我々を指導してくれたのだが、ボーイングの旅客機もノースロップの戦闘機もなかなか売れなかった。

昭和30年代後半になってこの劣勢を挽回すべく、当時日本の造船の約40%を輸出していた、船舶部門の海部八郎が航空機部門をも兼任することになった。

海部八郎が総指揮を取り始めると、政界、関連企業トップに対しての直接の戦略的接渉、取引が機能し始めた。結果として日本航空や全日空へのボーイング旅客機採用の門戸が開かれ、また航空自衛隊への戦闘機も2世代にわたって(F4の次にF15の採用)マクドネルが採用され、日本の空を飛ぶ航空機は半分以上日商岩井が関係するという時代がスタートした。

だが良い事だけが続かないのは世の常である。海部八郎(当時副社長)及び島田三敬(当時取締役)は、自民党の代議士とも足しげく付き合うようになってきた。その中には松野頼三、岸信介や安倍慎太郎の秘書たちが記憶に残っている。特に松野頼三経由の5億円の政治献金は、後に大きく我々の足を引っ張ることとなったのである。